



7月です！今日も雨です。ポーポキは外で遊ぶことが好きですので、雨の日は傘をさして遊びます。透明の傘だと自分だけの窓ができますし、模様のある傘だと、その模様の世界を楽しむことができます。あなたは、どんな傘が好きですか？

Popoki's Hot News!



Coming up!

9月28日「ポーポキ、おうちに帰れないって、ということ？～世界・FUKUSHIMA・私たちの生活から避難の権利を問う～」

神戸YMCA 三宮会館 14:00～ くわしくは8ページを参照

10月12日「ポーポキと一緒に平和と健康を考える」

兵庫医療大学 地域連携推進センター

秋はポーポキと一緒に

平和・避難・健康について一緒に考えませんか？

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのみはいにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。英語の俳句です。

“Barefoot in the night

The gentle grass cooling down

Lights at the windows”

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？

ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

ポーポキ in 台湾

ろにゃん

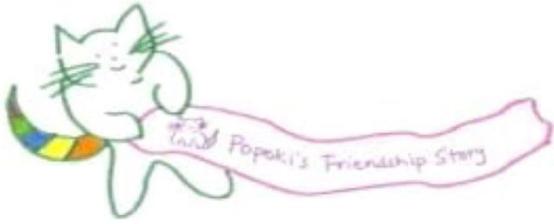


5月22日～25日、ろにゃんは台湾の高雄市に行ってきました。目的は、国立高雄科技大学の「2019年度 国際海洋文化会議」で基調講演を行い、大学生にポーポキのワークショップを行うことでした。そして、高雄科技大学の同僚に再開し、新しい仲間をつくることです。基調講演ではポーポキ友情物語活動を取り上げ、「ポーポキ、海は怖くないか？～沿岸地域で平和と安心のためのポーポキ活動から学ぶ～」について話しました。多くの人が熱心に聞いて、ポーポキの活動に関心を寄せてく

れたことはとてもうれしかったです。質問もありました。その中で驚いたのはキティちゃんとポーポキを比較するものです。「日本人はあまりにもねこが好きでびっくり。でも、キティちゃんはハッピーなのに対して、ポーポキはサド。それはなぜ？」それを受けて、「ポーポキはサドではありません。ポーポキはあるがままの気持ちを受け入れるので、ハッピーでもサドでもなんでも良いです。相手が感じていることを素直に表現できるように、ポーポキは静かにとりに座っているだけです」と説明しました。

二日目に約3時間にわたり、大学生に平和と安全・安心を考えるワークショップを英語で行いました。参加者の人数が多く、通訳を使わないことになっていたのが不安でした。けれど、みんなが一生懸命に参加してくれました。そして、昨年の夏にインドネシアで開催されたユネスコチェアサマープログラムの参加者一人、Laurenさんが難しい表現を訳したりして、いろいろな形で手伝ってくれました。おかげで、学生も私も充実した時間を過ごすことができ、そしてポーポキに新しい友だちができました。印象に残ったことはいろいろありますが、「ハッピー」の象徴として集合写真を表したり、最も気になる国際問題が核戦争だったり、今までになかったようなものもありました。最後にみんながポーポキ友情物語の布に絵を描いてくれました。今回の参加者の数人と、来月にインドネシアで開催されるユネスコチェアサマープログラムで再会することになっています。とても楽しみです。高雄科技大学のみなさん、ありがとう！





Popoki's Interview

藤室玲治さんインタビュー

聞き手：なぎさにゃん

今月は、阪神・淡路大震災以降、地震や災害の復興支援に関わり、現在は「被災地に学ぶ会」の代表として活動している藤室玲治さんにインタビューを行いました。インタビュー前に藤室さんのプロフィールを拝見しましたが、阪神・淡路大震災をきっかけに、様々な活動を行なっているようで、お話が聞けることを非常に楽しみにしていました。それではどうぞ！

~~~~~  
**Q1.** まず藤室さんのプロフィールを見て真っ先に頭に疑問に浮かんだことは、「どうして阪神・淡路大震災後からボランティア活動を始めたのか？」ということでした。実際に地震で被災した方でも、全ての方が復興支援に携わっているわけではないと思います。

**A1.** 阪神・淡路大震災が起きた時、神戸の北区に住んでいました。火事がひどかった長田区に母校の兵庫高校があり、友人たちの安否確認のために翌日バスに乗って被災地に行きました。友達に会い、避難所になっていた高校に行ってみると、避難されている方が大勢おられ足の踏み場もなかったんです。「自分にできることはないな」と感じ、家に引きこもっていました。

その後、高校時代の友達がボランティアをしていることを知り、私も始めたんです。半分ボランティアをしたい、半分友達とまた会いたい、という気持ちでした。その友達がいなかったら、今もボランティアをしていなかったかもしれないです。2月半ばに始めた時には、最後までやろうかなとは深く考えてはいませんでした。しかし、神戸のために全国のあちこちから人が来ていることに驚き、そういう人たちと何かしたいなという気持ちが生まれました。

4月に兵庫高校避難所からボランティアは撤退することになったのですが、まだ避難されている方々は大勢おられました。何かが終わったわけではなかったんです。もっと活動を続けたいと思っていました。

また、阪神・淡路大震災は歴史的にも大きい事件だと思いました。避難所でのボランティアで終わるという選択肢もありましたが、大学で「神戸大学総合ボランティアセンター」を作る仲間に出会ったんです。センターは学生主体で運営され、設立から半年後に公認団体になりました。その活動で秋には、灘区の地域型仮設住宅に通うようにもなりました。

まとめると、始めたきっかけは、①仲間がいたから、②震災という歴史的な出来事に関わりたかった、③被災した方々と関わっていたからだと思います。

**Q2.** いただいたプロフィールの中で「2000年 阪神・淡路大震災については、取り組みが終わったとのフィーリングが強く、成果も上げられなかったと感じて疲れていたこともあり、もうあまり災害支援系のことについては関わりたくないと思っていた」とありましたが、どういことでしょうか？

**A2.** 我々がやってきたことに意味はあったのかな、という徒労感がありました。灘区の大和公園に地域型仮設住宅（約250戸）があり、そこでよくお酒を飲み、喧嘩したり、救急車で

病院に運ばれたりする男性の方々が 10 名程おられました。退院して、また仮設住宅に帰ってきて、また救急車で運ばれて……という繰り返しなのですが、やがて帰ってこなくなる方も出てきます。10 名の中で、5 年後に生きて仮設住宅を出た人は 1 人しかいませんでした。アルコール依存の問題があることは当初から分っていたのに、何もできませんでした。

また、仮設住宅を出た後に住む復興住宅の場所は抽選で決まるのですが、元々住んでいた灘区や長田区からは遠く離れた西区や北区の復興住宅に移らざるを得ない方々が大勢いました。そうした方のひとりの引越しを手伝ったのですが、まったく新しい環境で、そのお婆あちゃんが「生きていけるのかなあ」と思いながら、何もできなかつたという経験もしました。

**Q3.** そのようなことを感じられたにも関わらず、現在までボランティア活動を続けている原動力は何ですか？

**A3.** 2004 年に新潟県中越地震が起きるのですが、神戸大学の後輩が新潟の避難所に支援活動に行くことになったので、電話で毎晩アドバイスをしていました。その時に「神戸の教訓を届けたい」「自分はこういうことが好きなんだ」と思いました。それで、阪神・淡路大震災に関する資料を読んで、孤独死やアルコール依存症といった仮設住宅での課題など、いろんな問題や教訓を新潟に伝えたいと思うようになりました。

今まで続けられているのは、神戸の仮設住宅に関わっていた時に、うまく支援できなかったという悔しい気持ちがあるからだと思います。

**Q4.** 藤室さんから見た、阪神・淡路大震災と東日本大震災の相違点は何でしょうか？

**A4.** 阪神・淡路大震災の被災地では、大まかな見かけは 3 年くらいで復興しました。その裏で、仮設住宅等では孤独死がありました。東日本大震災では、見かけも復興したとはいえないような場所がたくさんあります。多額の復興予算をかけた嵩上げ地の上に再建された住宅がまばらに散らばっています。地震被害と津波被害の違い、被災規模の違いもありますが、1995 年と 2011 年の日本の持っている力の差でもあります。日本で土木産業の従事者人口が最も多かったのは 1997 年でした。現在の日本は阪神・淡路大震災の際のスピードで復興することはできなくなっています。

また 2004 年の中越地震の際には、阪神の教訓が活かされたと感じたことが多かったのですが、2011 年の東日本大震災については、あまりそうは感じませんでした。復興に向けて柔軟に活用できる復興基金もありませんでした。日本が復興する力は衰えています。

**Q5.** 藤室さんが取材されている新聞記事に「ボランティア活動において大切なことは共感すること」とありましたが、地震やその他の災害を経験したことがない人にとっては、それは難しいことではないかと感じます。そのような人たちがボランティアをするにあたり、心得ておくことはなんでしょうか？

**A5.** 「傾聴すること」が大切だと思います。被災者のお話を聞くことで、被災経験の無い人も、相手の経験を追体験できることもあります。一人ひとりが平和に生きられることが大事なのですが、そのためには、自分の話を聞いてもらえる、存在を受け止めてもらえるということが大事です。話すだけでも気持ちを整理できたり、自己解決することができます。問題解決できなくても、聞いてもらうことそのものが大事です。悩みが軽くなります。被災経験がなくても傾聴はできます。相手から聞いたことを、自分なりの言葉に整理して確認しな

がら投げ返すことで、相手は自分の言ったことが受け止めてもらえていると安心し、さらに色々話をしてくれます。

また、地域の歴史や文化、地名、特産品などを知っていると話題もいろいろ広がって傾聴することができます。被災した方々同士だと話すことが難しい話題もあるのですが、それも他のところから来た人には話せません。

**Q6.** 現在代表を務めている「被災地に学ぶ会」の活動について教えてください。

**A6.** 過去の災害から学べることは、防災・減災についての知識だけではなく、「命の大切さ」等の人間の実存的意義や、現代社会の課題や問題点も学べます。これまでのつながりを活かして、そういう学びをいろんな人に提供できる会にしたいと考えています。

~~~~~

インタビューを終えて、孤独死などの「二次災害」や心のケアの重要性、また神戸のような過去の被災地が、東北などに伝えられることはたくさんあることを知ることができました。また、私は2月に大槌町・大船渡を訪れた時に、「被災者へ寄り添うこと」の難しさを感じました。しかし藤室さんのお話を聞いて、自分にもまだできることがあるのではないかと認識することができました。みなさんは、このインタビューからどのようなことを感じましたか？藤室さん、本当にありがとうございました！

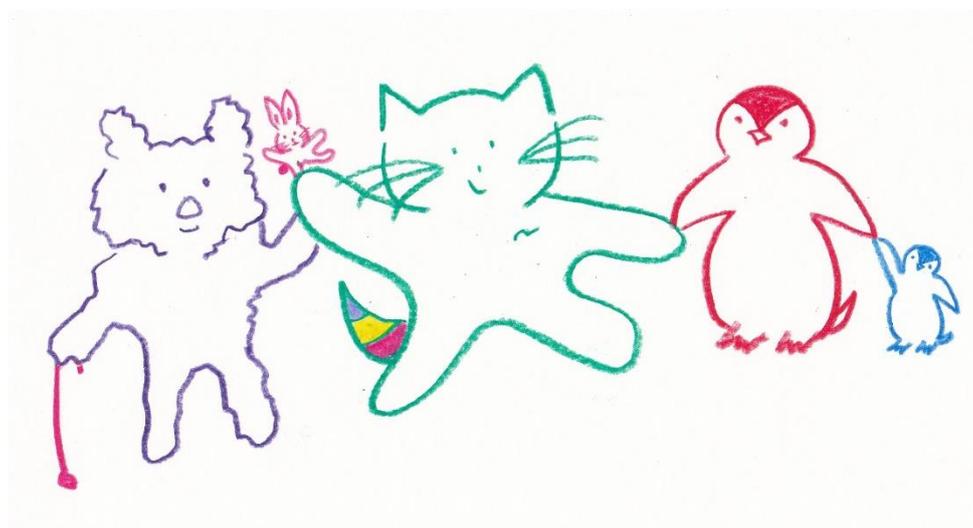


「倉敷市真備町の岡田仮設住宅で「被災地に学ぶ会」と「災害看護支援機構」「神戸大学学生震災救援隊」合同のボランティア活動後に住民の方々と(2019年7月14日)」



神戸市灘区の大和公園仮設住宅。2階建ての高齢者障害者用仮設住宅。住民と神戸大学ボランティアでゲートボール（1997年）」

***実は、藤室さんは2006年、活動を開始した頃からポーポキ・ピース・プロジェクトのメンバーでいつもポーポキをサポートしてくれています！（ろにゃん）



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 134

今月のテーマは、ゴロゴロしながら、楽に腰をストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、あお向けになりましょう。足も手ものばしながら、体をなが〜くしましょう。そして、その姿勢でゆっくりやさしく左右に体をゆらしましょう。
 3. 次は、膝を抱えましょう。そのまま、また左右にゆらゆらと体を揺らします。上下にもできますか？しっぽを踏まないようにね。
 4. 最後は腹筋を使ってみましょう。足を上に伸ばしてから、ゆっくりと右へ、左へと床の近くまで下ろします。しっぽも一緒にどうぞ。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：9月20日@灘薬剤師会 19:00

- 7.30 10:00～ ポーポキ読み聞かせ@はとぼっぼ保育所！
- 8.2 ポーポキ@神戸大学男女共同参画推進室主催のサマープログラム
- 8.5 ポーポキワークショップ@国際理解教育・国際共催セミナー (JICA 関西)
- 8.6-7 ポーポキ@MERCY Malaysia Conference! クアラルンプール
- 8.9 9:50～ ポーポキの核問題を話し合う国際スカイプ! (予定)
- 8.18-30 ポーポキ@ユネスコチェア・サマープログラム インドネシア・ガジャマダ大学
- 9.28 ポーポキと色々なことを考えるサロン：福島第一原発事故による避難問題を考えるセミナー 14:00～16:30@神戸 YMCA 三宮会館 (詳しくは次ページを参照)
- 10.12 平和と健康ワークショップ 兵庫医療大学 14:00～16:00 (さとにゃん)

「ポーポキ、おうちに帰れないって、どういうこと？」 ～世界・FUKUSHIMA・私たちの生活から避難の権利を問う～

Popoki, what does it mean to not be able to go home? Thinking about the right to evacuate from the perspective of the world, Fukushima and our lives

Special guest
特別ゲスト 加藤裕子(KATO Yuko)さん

(福島第一原子力発電所事故被災者、原発賠償関西訴訟原告)

(Refugee from Fukushima Daiichi Nuclear plant accident; Nuclear compensation lawsuit plaintiff)

いつ/When 2019年9月28日(土) 14:00～16:30

どこで/Where ^{Kobe}神戸YMCA ^{Sannomiya Center}三宮 会館

神戸市中央区加納町2丁目7-7-11 <https://www.kobeymca.org/program/sannomiya/index.html>

問い合わせ先/Information 神戸YMCA国際・奉仕センター Kobe YMCA 078-241-7204

参加費/Fee 無料/Free どなたでも参加できます/Everyone is welcome

プログラム/Program



14:00 スタート

14:10 動画鑑賞 Video

Discussion Sharing
14:20 ディスカッション・共有

KATO Yuko
14:50 加藤裕子さん!

「避難～大切な命を守る～わたしの決断、ペットとともに」
“Evacuating: Protecting important lives – My decision to leave, and take my pets, too”

Discussion
15:30 ディスカッション

Sharing
16:20 共有

End
16:30 おわり

主催/Sponsors: ^{Popoki}ポーポキ・^{Peace}ピース・^{Project}プロジェクト、^{Kobe}神戸YWCA ^{Evacuee}避難者

^{Support Project}サポートプロジェクト、^{Kobe}神戸YMCA ^{International}国際・^{Community}奉仕 ^{Center}センター

Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー :

<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしまど 52」『神戸青年・Kobe YMCA News』 No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8 10





私にとってポーポキ

キヨにゃん

私がポーポキに参加してから今年で6年になりました。
1年目のころはすべてが初めてで、何がなんだか分からない状態でした。
ろにゃんに叱られることも度々（汗

でも、年数が経ってきて、ポーポキの活動に参加していてよかったなあって思うようになってきました。
それを一番感じたのは、社会人一年目の頃でした。
やっぱり、何がなんだか分からない状態でした。特に人間関係(*_*)
皆が大人で大変な時もたくさんありました。

でも、たまにでしたが時間ができてポー会に参加すると、いつものメンバーがいて（入れ替わったりで全員が一緒ではないですが... 泣）
居場所があるって幸せなことなんだと感じたことがポーポキに参加しててよかったと感じたことです。
最後に、私にとってのポーポキとは、ドラえもんのようにいつでもどこでもいるような存在です。



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動

をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸



ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!